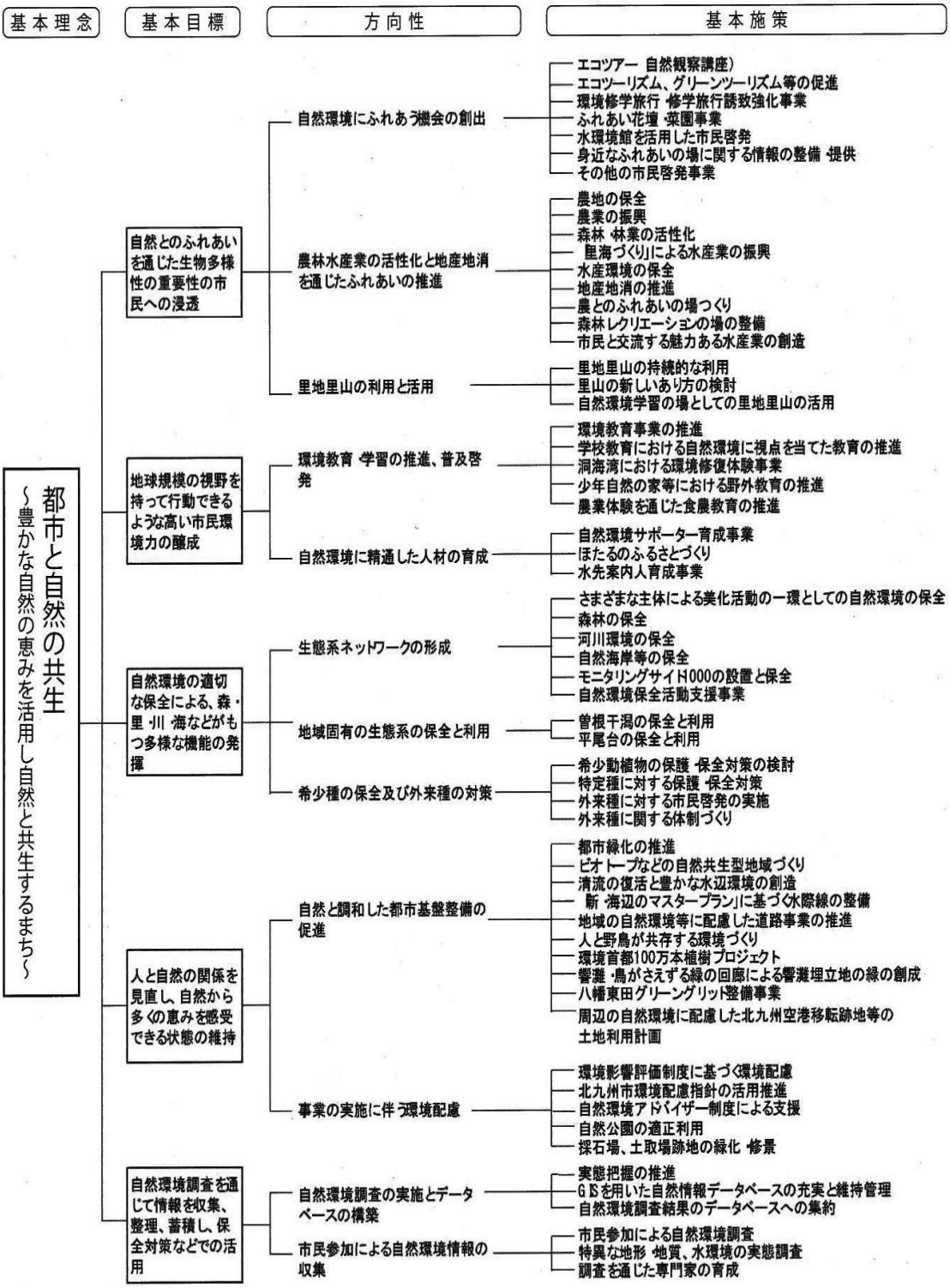
令和３年１月21日
環境局 環境監視課

第２次 北九州市生物多様性戦略進捗評価報告（令和元年度実績）について

１　戦略の全体像（体系図）

２０１５年度からの１０年間を期間とした本戦略は、「都市と自然の共生」を基本理念とし、５つの基本目標を定め、基本目標ごとに方向性、基本施策を掲げている。



２　戦略の推進に向けた数値目標

基本目標１　自然とのふれあいを通じた生物多様性の重要性の市民への浸透

番号	項目	単位	目標値（年度）
1	本市が取り組む環境学習プログラムとしてのエコツアー参加人数	人	6,500（2020）
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数	人	4,000（2020）
3	自然環境体感ツアーの参加人数	人	500（2019 累計）

基本目標２　地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成

番号	項目	単位	目標値(年度)
1	小学生の環境体験科における響灘ビオトープ活用数	校	25（2024）
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数【再掲】	人	4,000（2020）

基本目標３　自然環境の適切な保全による、森・里・川・海などがもつ多様な機能の発揮

番号	項目	単位	目標値(年度)
1	自然環境保全に取り組む団体への支援件数	件	10（2024）
2	「北九州市自然環境保全ネットワークの会」参加 団体等が開催する自然環境保全活動参加者数	人	約 2,000（2024）

基本目標４　人と自然の関係を見直し、自然から多くの恵みを感受できる状態の維持

番号	項目	単位	目標値(年度)
1	環境首都 100 万本植樹プロジェクトによる植樹本数	本	1,000,000 (2024　累計)
2	市街地(市街化区域)の緑の確保	%	9.5（2020　累計）

基本目標５　自然環境調査を通じて情報を収集、整理、蓄積し、保全対策などでの活用

番号	項目	単位	目標値(年度)
1	ベッコウトンボ市民調査実施回数	回	３（2020）
2	曽根干潟における生物調査の実施	回	４（2020）

３　補助的な指標による評価について（平成 29 年度～令和元年度市民意識調査から）

毎年実施されている市政評価において、生物多様性戦略に特に関係の深い市の政策（「自然環境の保全と自然とのふれあいの推進」、「公園の整備など、緑のまちづくりの推進」）の評価は、全 34 項目中 31 位（令和元年度）と 5 位（令和元年度）となった。

以上から、緑のまちづくりについては市民から既に高い評価が得られている一方で、自然環境保全や自然とのふれあいについては、他の環境分野と比べても、市民から高い評価を得られておらず、今後更なる取組の推進が必要である。

（表）市政評価の経年変化　（評価）抜粋

	調　査　項　目	（順位）と平均スコア			
		H29	H30	R01	【参考】R02(中間)
	15 公園の整備など、緑のまちづくりの推進	(3)．445	(4)．405	(5)．413	(5)
環境	30 ごみの適正処理とリサイクル	(2)．468	(2)．504	(2)．522	(2)
環境	31 大気・騒音・水質などの環境保全	(14)．136	(12)．143	(10)．162	(11)
環境	32地球温暖化対策、省エネ、再生可能エネルギーの推進	(19)．089	(16)．121	(21)．073	(18)
環境	33 自然環境の保全と自然とのふれあいの推進	(33)．029	(30)．037	(31)．023	(33)

２ SDGs の観点からの評価

○環境基本計画（環境首都・SDGs 実現計画）から見た生物多様性戦略と SDGs の関係性

環境基本計画（副題：環境首都・SDGs 実現計画）においては、第２次生物多様性戦略の内容も盛り込み、SDGs の 17 のゴールとの関係性を整理した上で、環境政策の観点から SDGs の実現を図っている。

環境基本計画と第２次生物多様性戦略、及び関連する SDGs を整理すると、本紙裏面（図）のとおりである。環境基本計画の進捗点検と生物多様性戦略の進捗点検を連携して実施し、生物多様性戦略の基本施策ごとに、推進が可能な SDGs のゴールを整理している。

（裏面（図）生物多様性戦略と環境基本計画、SDGs について）

（図）生物多様性戦略と環境基本計画、SDGs について

４　５つの基本目標ごとの進捗状況（２０１９年度）

基本目標１　自然とのふれあいを通じた生物多様性の重要性の市民への浸透

（１）数値目標の進捗状況

	項目	目標値（年度）	2019 年度 (R01) 実績	2018 年度 (H30) 実績	2017 年度 (H29) 実績
1	本市が取り組む環境学習プログラムとしてのエコツアー参加人数	6,500 人（2020）	4,352	4,512	4,285
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数	4,000 人（2020）	4,987	4,659	4,476
3	自然環境体感ツアーの参加人数	500 人（2019 累計）	579	479	312

（２）方向性ごとの主な施策の進捗状況

方向性１　自然環境にふれあう機会の創出（施策数：７）

・「エコツアー（自然観察講座）」では、響灘ビオトープを活動の場としたガイドツアーや、自然ネットの協力のもと「自然体感ツアー」を開催し、自然とふれあう機会を提供。

・「エコツーリズム、グリーンツーリズム等の促進」では、一般市民を対象にした環境コンシェルジュ主催の「ドコエコ！ツアー」を開催したほか、エコツアーをより充実させるための「エコツアーガイドブック」の改訂、小学校高学年向けタブロイド誌の発行・配布した。

・「その他の市民啓発事業」では、長野緑地における農業体験教室を開催し、1,944 人の参加があった。

方向性２　農林水産業の活性化と地産地消を通じたふれあいの推進（施策数：９）

・「農地の保全」では、環境に配慮した農業に取り組んだ。

・「森林・林業の活性化」では、私有地の荒廃した森林の間伐（96.1ha）を実施。

・「水産環境の保全」では、漁業者等が藻場等の環境保全活動（食害生物（ウニ類）の駆除等）を 5 箇所で実施。

・「地産地消の推進」では、「農林水産まつり」「かき焼きまつり」等のイベントを通じて、市内食材のＰＲを積極的に行った。

方向性３　里地里山の利用と活用（施策数：３）

・「里山の新しいあり方の検討」では、竹林の維持管理のため、133ｔの竹が搬出された。竹等粉砕機の貸出件数は 14 件となった。

（３）環境局による基本目標１の進捗状況評価

数値目標については一部進捗に遅れがあるものの、方向性ごとの主な施策の進捗状況は内容に応じた取り組みが推進されている。よって、**基本目標の達成に向けた施策の強化が必要**。

基本目標２　地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成

（１）数値目標の進捗状況

	項目	目標値（年度）	2019 年度（R01）実績	2018 年度（H30）実績	2017 年度（H29）実績
1	小学生の環境体験科における響灘ビオトープ活用数	25 校（2020）	11	22	21
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数【再掲】	4,000 人（2020）	4,987	4,659	4,476

（２）方向性ごとの主な施策の進捗状況

方向性１　環境教育・学習の推進、普及啓発（施策数：５）

・「環境学習事業の推進」では、環境首都検定の受験者数が 5,117 人となり昨年度に引き続き、過去最高となった。（H30：4,520 人）

・「学校教育における自然環境に視点を当てた教育の推進」では、小学校第４学年を対象にした「ＳＤＧｓ環境アクティブ・ラーニング」を 92 校で実施した。

・「農業体験を通じた食農教育の推進」では、小学校への児童・先生を対象にした食や農業の出前授業や体験活動を小学校 16 校　1,077 人に対して行った。

方向性２　自然環境に精通した人材の育成（施策数：３）

・「ほたるのふるさとづくり」では、市民を対象として、ホタルや水辺環境について学ぶ学習会「ほたると水辺の環境学習会」を年５回開催。（参加者：80 名）

・「自然環境サポーター育成事業」は、一部事業への関与のみに留まっている。今後は、自然講演会や植樹会等の既存事業に対して、自然環境サポーターの積極的な関与を目指し、北九州市自然環境保全ネットワークの会などの意見を集約し、新たに自然環境保全に精通した人材を育成する方法の検討を進めていく。

（３）環境局による基本目標２の進捗状況評価

数値目標については進捗に遅れがあるが、方向性ごとの主な施策の進捗状況は内容に応じた取り組みが推進されている。よって、**基本目標の達成に向けた施策の強化が必要**。

基本目標３　自然環境の適切な保全による、森・里・川・海などがもつ多様な機能の発揮

（１）数値目標の進捗状況

	項目	目標値（年度）	2019 年度（R01）実績	2018 年度（H30）実績	2017 年度（H29）実績
1	自然環境保全に取り組む団体への支援件数	10 件（2024）	13	14	12
2	「北九州市自然環境保全ネットワークの会」参加団体等が開催する自然環境保全活動参加者数	約 2,000 人（2024）	約 1,000	約 2,700	約 2,700

（２）方向性ごとの主な施策の進捗状況

方向性１　生態系ネットワークの形成（施策数：６）

・「さまざまな主体による美化活動の一環としての自然環境の保全」では、「市民いっせいまち美化の日」を定め、9 月から 10 月の期間中、市民による地域の道路、公園、河川、海浜等のいっせい清掃を実施。まち美化ボランティア清掃参加者数は 129,001 人となった。

・「河川環境の保全」では、景観や生態系の保全等その周辺の自然環境保全に努め、これらの環境機能と調和のとれた河川整備を進めており、ホタルの飛翔や緑の増加など、「多自然川づくり」を行った。

方向性２　地域固有の生態系の保全と利用（施策数：２）

・「曽根干潟の保全と利用」では、環境省のモニタリングサイト 1000 のほか、市による曽根干潟での環境調査（鳥類調査、底生動物調査、底質調査）を実施し、情報を蓄積した。

・「平尾台の保全と利用」では、平尾台の自然環境の現況を把握するため、夏季に植物相調査を実施し、調査の結果、24 種の重要種（環境省レッドリスト 2019 掲載種等）が確認された。

方向性３　希少種の保全及び外来種の対策（施策数：４）

・「外来種に対する市民啓発の実施」では、ヒアリ・アカカミアリの防除の状況について、市 HP で広報した。

・「外来種に対する体制づくり」では平成 29 年 10 月に特定外来生物の「ヒアリ」が市内で確認されて以降、令和元年度も環境省や福岡県と連携して防除およびモニタリング調査を継続して実施。

（３）環境局による基本目標３の進捗状況評価

数値目標については一部進捗に遅れがあるものの、方向性ごとの主な施策の進捗状況については、内容に応じた取り組みが推進されており、**基本目標の達成に向け順調に進捗している**。

基本目標４　人と自然の関係を見直し、自然から多くの恵みを感受できる状態の維持

（１）数値目標の進捗状況

	項目	目標値（年度）	2019 年度（R01）実績	2018 年度（H30）実績	2017 年度（H29）実績
1	環境首都 100 万本植樹プロジェクトによる植樹本数	1,000,000 本（2024 累計）	727,046 本	717,645 本	704,724
2	市街地（市街化区域）の緑の確保	9.5%（2020 累計）	8.4	8.3	8.3

（２）方向性ごとの主な施策の進捗状況

方向性１　自然と調和した都市基盤整備の促進（施策数：10）

・「「新・海辺のマスタープラン」に基づく水際線の整備」では、海辺利用促進会議を開催（令和元年７月）し、専門家からの意見聴取を行ったほか、取り組みの進捗管理などを行った。

・「環境首都 100 万本植樹プロジェクト」では、「みんなで植えれば 100 万本」を合言葉に、15 年で 100 万本を目標として、市民・NPO・行政など様々な主体が市内各地で植樹を実施しており、令和元年度までの推計植樹本数は 727,046 本となり、順調に推移している。

・「響灘・鳥がさえずる緑の回廊による響灘埋立地の緑の創成」では、10 月に植栽場所の草取りイベント（参加者約 60 人）を開催したが、緑の回廊植樹会（令和２年３月 23 日予定）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

方向性２　事業の実施に伴う環境配慮（施策数：５）

・「環境影響評価制度に基づく環境配慮」では、環境影響評価法及び北九州市環境影響評価条例に基づき事業者が行う環境影響評価にあたり、環境影響評価審査会を開催し、環境保全の見地から適切な意見の提出を行っており、令和元年度は、環境影響評価審査会を３回開催。

環境保全の見地からの意見の提出は、配慮書２件、準備書１件となった。

・「北九州市環境配慮指針の活用推進」では、本市の公共事業を対象に、自主的な環境配慮を促す「環境配慮点検制度」の運営等を行っており、令和元年度は、44 件の公共事業について点検を実施した。

（３）環境局による基本目標４の進捗状況評価

数値目標については進捗の遅れやペースの鈍化が見られるものの、方向性ごとの主な施策の進捗状況についても内容に応じた取り組みが推進されている。よって、**基本目標の達成に向けた施策の強化が必要**。

基本目標５　自然環境調査を通じて情報を収集、整理、蓄積し、保全対策などでの活用

（１）数値目標の進捗状況

	項目	目標値 (年度)	2019 年度 (R01)実績	2018 年度 (H30)実績	2017 年度 (H29)実績
1	ベッコウトンボ市民調査実施回数	３回 (2020)	０	３	３
2	曽根干潟における生物調査の実施	４回 (2020)	８	６	８

（２）方向性ごとの主な施策の進捗状況

方向性１　自然環境調査の実施とデータベースの構築（施策数：３）

・「実態把握の推進」では、市による曽根干潟での環境調査（鳥類調査、底生動物調査、底質調査)、環境省のモニタリングサイト 1000 での調査（年３回）を実施。蓄積したデータの活用方法として市民参加型の保全活動やツアー型学習会など、エコツーリズムの推進を検討している。

・「GIS を用いた自然情報データベースの充実と維持管理」では、動植物分布情報の一元管理や市民への公開を容易にするため、「自然環境情報 GIS データベース」の構築に取り組むべく、平成 30 年度に引き続き、情報の整理（希少種と位置情報）を行った。今後は、希少種や分布情報のデータ整理、調査結果集約に向けた庁内連携及び共通様式の作成を検討。

方向性２　市民参加による自然環境情報の収集（施策数：３）

・「市民参加による自然環境調査の実施」では、ベッコウトンボの市民参加調査は頭数減少により、生息環境保全の観点から未実施。今後のベッコウトンボの発生状況により、指定管理者と協議しながら、目標達成に向け、引き続き取り組んでいく。

・「特異な地形・地質、水環境の実態調査」では、本市の代表的な自然環境拠点である平尾台や曽根干潟の自然環境の特徴や現況、市内の希少種の生息状況を把握・整理を行った。

（３）環境局による基本目標５の進捗状況評価

数値目標については進捗に遅れがあるが、方向性ごとの主な施策の進捗状況は内容に応じた取り組みが推進されている。よって、**基本目標の達成に向けた施策の強化が必要**。

総合評価

・数値目標（11 項目）のうち６項目で目標を達成した。

・60 の基本施策において、基本目標の達成に向けた取組みを推進している。

⇒第２次北九州市生物多様性戦略は、おおむね順調に進捗している。

５　本戦略と SDGｓのゴールの関係

ＳＤＧｓのゴール		本戦略　基本施策との関わり	施策数
2	2　飢餓をゼロに	農林水産業の推進による持続可能な食糧生産システム確保など	1
3	3　すべての人に健康と福祉を	様々な主体による植樹の実施や環境に配慮した開発事業の実施など	6
4	4　質の高い教育をみんなに	自然環境学習を通じたＥＳＤの推進など	20
6	6　安全な水とトイレを世界中に	水に関連する生態系の保護・回復など	12
7	7　エネルギーをみんなにそしてクリーンに	バイオマス資源などの再生可能エネルギーの積極活用など	4
8	8　働きがいも経済成長も	自然の観光資源としての活用や様々な生態系サービスの提供など	8
9	9　産業と技術革新の基盤をつくろう	生態系を利用した防災・減災の推進による持続可能で強靭なインフラ整備など	15
11	11　住み続けられるまちづくりを	都市緑化の推進や生態系を利用した防災・減災など	20
12	12　つくる責任つかう責任	バイオマス資源などの再生可能資源の積極活用など	9
13	13　気候変動に具体的な対策を	森林の適正管理による森林吸収源、バイオマス資源の積極活用など	12
14	14　海の豊かさを守ろう	海洋及び沿岸の生態系保全、資源回復に向けた取組など	34
15	15　陸の豊かさも守ろう	森林の適正管理や生態系の場の保全、希少種の保護、外来種対策、環境アセスメントの推進など	45
17	17　パートナーシップで目標を達成しよう	団体や企業、自治会等との協働による自然環境保全活動の実施など	8

「15．陸の豊かさを守ろう」（45 施策）

例）エコツアーの実施、自然環境保全活動支援事業、地産地消の推進、ほたるのふるさとづくり　等

「14．海の豊かさを守ろう」（34 施策）

例）エコツアーの実施、自然環境保全活動支援事業、曽根干潟の保全と利用、水環境館での市民啓発　等

※28 施策がゴール 14・15 の両方に関与

⇒生物多様性（陸・海の生態系）の保全に貢献している。

「11．住み続けられるまちづくりを」（20 施策）

例）鳥がさえずる緑の回廊創成事業、新・海辺のマスタープランに基づく水際線の整備、北九州市環境配慮指針の活用　等

「4．質の高い教育をみんなに」（20 施策）

例）各学習施設の運営、環境アクティブラーニング、環境修学旅行　等

⇒本戦略における都市緑化や環境学習等の取組がまちづくりや教育にも貢献している。

６　今後の取組み

令和元年度実施した市政モニターアンケートの結果において、生物多様性については５６．６％、本市の自然環境保全の取組みについては６０．４％が認識していた。また、自由意見等では、よい取り組みを積極的に行っている・継続してほしいなどという意見があった。

これらの結果を踏まえ、今後は、次世代を担う子ども達を対象に、小学校での出張授業や体感講座等を実施するほか、幅広い年代に向けた生物多様性に関する「学び」に係る取組みを積極的に行い、自ら「行動する」人材の育成を図り、市民参加型で持続的な自然環境保全を更に推進する。

【イメージ】